

科目名称：	障害児保育実習Ⅰ	
担当者名：	中村 明成 山田 紀子	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	実習	1
授業の目的・テーマ		
実際に様々な保育現場（保育園・こども園・幼稚園・障害者支援施設）を訪問し、「インターンシップ（現場参加）」を体験する。二人でペアを組み、対象となる「子ども」を中心に、保育の現場で、保育者が実際にどうかかわっているか、特にコミュニケーションに焦点を当てて、自らもかかわってみる。その記録をまとめ、指導していただく保育者とのミーティング、カンファレンスも実施する。そこから、かかわることの意味を考えていく。		
授業の達成目標・到達目標		
子どもの行動の意味を、実際のかかわりからより深く考える。インターンシップ先の指導者の姿から学び、ミーティングを通して、より子ども理解を深める。後期の「障害児保育実習Ⅱ」に向けて、記録のとり方、考察に至るプロセスを理解する。		

幼児教育学科		ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	自己理解を深め目標に向かって主体的に行動するとともに、多様性を尊重し、子ども・保護者・地域住民との良好な信頼関係を築いていくことができる。		
DP(2)	保育・幼児教育を取り巻く様々な問題に取り組む幅広い教養を身につけるとともに、変化する社会に対応するための協働的な実践力を身につけている。		
DP(3)	保育・幼児教育の分野において、基礎知識を身につけるとともに、使命感、倫理観、責任感をもって専門的な知識や技能を修得し、これらを柔軟に活用していくことができる。		○

評価方法／ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
幼児教育DP(1)					0
幼児教育DP(2)					0
幼児教育DP(3)			100		100
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容1》（中村） 障害者支援施設 支援員 社会福祉士 ケアマネージャー	《経験年数1》 11年10か月
	《内容2》（小西） 保育士 幼稚園教諭	《経験年数2》 12年4か月 19年
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》
備考		

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
インターンシップ記録	自分たちのかかわりを、ふりかえり、関与者と記録者が話し合いなが記録にまとめられる	自分たちのかかわりをふりかえり、記録にまとめられる	自分たちのかかわりから、記録することができる	記録としてまとめることが不十分である
カンファレンス	自分のケースだけでなく、他のケースについてもよく考え意見を出し合える	自分のケースについて、他者の意見を参考にして話し合える	自分のケースについての話し合いを記録できる	自分のケースについての話し合いが不十分である

授業の内容・計画		事前事後学修の内容	事前事後学修時間（分）
第1回	オリエンテーションと学習の進め方 履修した理由と学習内容に対する希望	シラバスを読んでおく	40分
第2回	インターンシップ（前期現場参加）についての事前学習（ねらい）	昨年度成果発表会冊子の読み込んでおく	30分
第3回	インターンシップ（前期現場参加）についての事前学習（観察方法・記録）	昨年度成果発表会冊子の読み込んでおく	30分
第4回	インターンシップ（前期現場参加）	インターンシップの記録の整理	60分
第5回	インターンシップ（前期現場参加）	インターンシップの記録の整理	60分
第6回	インターンシップ（前期現場参加）	インターンシップの記録の整理	60分
第7回	インターンシップ（前期現場参加）とカンファレンス	カンファレンスでの記録を加筆する	45分
第8回	インターンシップ（前期現場参加）とカンファレンス	カンファレンスでの記録を加筆する	45分
第9回	インターンシップ（前期現場参加）	インターンシップの記録の整理	60分
第10回	インターンシップ（前期現場参加）	インターンシップの記録の整理	60分
第11回	インターンシップ（前期現場参加）	インターンシップの記録の整理	60分
第12回	インターンシップ（前期現場参加）とカンファレンス	カンファレンスでの記録を加筆する	45分
第13回	インターンシップ（前期現場参加）とカンファレンス	カンファレンスでの記録を加筆する	45分
第14回	インターンシップ（前期現場参加）とカンファレンス	カンファレンスでの記録を加筆する	45分
第15回	インターンシップの記録のまとめ	全体の記録をまとめる	60分
事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。事前事後学習としてはインターンシップの記録をまとめる			
成績評価の方法・基準			
定期試験は、実施しない。 その他の評価配分は、以下のとおりである。			
課題（毎回のインターンシップ（現場参加）の記録をまとめ、確認する。現場参加先のミーティングや学内でのカンファレンスをまとめる。） 100%			
課題に対してのフィードバック			
教員が、インターンシップ（現場参加）先を訪問し、学生と子どもの関わりを確認する。記録は、確認し講評し返却する。指導する保育者にもかかわる目的を説明し、理解を深めて指導していただく。			
教科書・参考書			
適宜資料を配付する。			